



待降節第 4 主日 (ルカ 1:39-45)

「挨拶」に神の祝福を込めて

待降節最後の週は、マリアがエリサベトを訪問する場面が取り上げられました。イスラエル巡礼に行くと、エルサレムの西「エンカレム」という土地に「エリサベト訪問の教会」と呼ばれる教会があります。そして谷を挟んで、谷の向こう側には「洗礼者ヨハネ生誕の教会」があります。

エリサベト訪問の教会には、出来事をあしらった壁画だったか、タイルでこしらえた絵だったかがありました。そして世界中の言葉で書かれた「アヴェ・マリアの祈り」のレリーフが飾られています。もちろん日本語もあって、日本からの巡礼者は必ず探し出して喜び合います。

さて今週の「マリア、エリサベトを訪ねる」の朗読箇所から、「挨拶」ということを取り上げて話したいと思います。エリサベトが身ごもったと聞くとマリアは出かけて、ザカリアの家に入ってエリサベトに「挨拶」します。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどります。そしてエリサベトは聖霊に満たされて声高らかに言った(賛美した)のでした。

ここに何回か「挨拶」が取り上げられていますが、この「挨拶」は、日本人が考える「挨拶」と全く同じなのでしょうか？このことを今週考えて、救い主を待ち望む最後の準備に当てたいのです。日本人が考える「挨拶」、たとえば「おはようございます」「今日は寒いですね」「雨になりましたね」「それではさようなら」通常私たちが交わす挨拶と、福音朗読で紹介されているマリアの挨拶は、全く同じものなのでしょうか。

そう言われると、皆さんきっと「同じではないのかな？」と感じたと思います。福音書の中での「挨拶」でもう一つ取り上げると、天使ガブリエルが、救い主誕生の予告をマリアにする場面です。これに対してマリアは「この言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ」(ルカ 1・29)という反応を見せました。この「挨拶」も、どうやら「おはようございます」や「お天気いいですね」の類いの挨拶とは違うなあとお感じになるでしょう。

では聖書の中の「挨拶」を理解するために、何を参考にすればよいのでしょうか。私たちにも理解の助けになる挨拶があります。それは「ミサの中での挨拶」です。祈祷書を開いたら、ちょうど良い参考がありました。「入祭のあいさつ」です。

ミサの始め、十字架のしるしのあとに「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」と司式者が挨拶します。皆さんは「また司祭とともに」と答えます。この挨拶が、マリアの挨拶や、天使ガブリエルの挨拶を知るのにピッタリなのです。

この「入祭のあいさつ」には、儀礼としての意味合いを超えたものが含まれています。それは「祝福」です。司式者は「恵み、愛、交わり」

が三位一体の神から届きますようにと挨拶しているのです。「祝福を届ける言葉」という表現が、聖書の中の挨拶にはピッタリなのです。単なる儀礼ではなく、人が間に入って、神の祝福を届ける。そしてそれを受け取り、感謝・賛美する。これが、聖書の中で言われている「挨拶」なのです。

ここでちょっと余談ですが、ミサの中で「主は皆さんとともに」という挨拶が聞こえたら皆さんは何と答えますか？「また司祭とともに」と答えますよね。これ、よくよく考えると、「また司祭とともに」が厳密には当てはまらないときがあるのです。

三年前に、献堂百周年が行われて大司教様がミサの主司式をされました。大司教様が「主は皆さんとともに」と挨拶しているのに、「また司祭とともに」と答えるのは、厳密に言うとき当てはまらないかも知れませんね。ほかにも、福音朗読を助祭の方が務めたとします。助祭は、司祭ではありませんが、「主は皆さんとともに」と招きますね？皆さんの答えは、「また司祭とともに」。これって、よくよく考えると適当ではないわけです。

「そう言われれば、そうだなあ。」気付くことはとても大切です。あと一年待ってください。今日は、「そう言えばそうだ」で止めておきますが、この問題を日本の司教様始め、全国から集まった典礼委員会の代表がうまいこと解決してくれました。

来年の待降節からは、入祭のあいさつで大司教様が「平和が皆さんとともに」と言った場合も、主任司祭が「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」と言った場合も、どちらにも当てはまる返事を皆さんもできるようになります。ミサの典礼が少し変わったとしても、「どうして大司教様の招きに『また司祭とともに』と答えるのだろうか？」と疑問を感じるよりは、ずっと良いと思います。

マリア様の挨拶を、ここまで考えてきました。儀礼的な挨拶を超えた、祝福を届ける働きが聖書の中の挨拶にはあります。まずは、ミサの中の挨拶では祝福を届けてもらっているのだなと意識しながら返事をしましょう。そしていつか、ミサの中の平和の挨拶「主の平和」を、キリストを知らない人にも届けられる人になりましょう。神の祝福は、私たちの挨拶次第で、すべての人に届けることができます。

主の降誕(夜半)(ルカ 2:1-14)